

主体性・能動性を育成する情報リテラシー教育
—図書館における教育・学習支援をどう進めるか—

2013年7月19日(金)・26日(金)
データベースセミナー(紀伊國屋書店)

野末 俊比古(青山学院大学)
tnozue@ephs.aoyama.ac.jp

このペーパーは、標記講演時に投影したパワーポイントのスライドを箇条書き化したものです。ごく軽微な修正をしたほかは、中身はすべて講演時のままです。ご質問・ご要望・ご意見・ご批判などをいつでも歓迎いたします。講演者(野末)までお気軽にご連絡ください。

1. はじめに

講演の趣旨(主張)

- 図書館(員)は「教育」と「研究」にもっと“能動的”に関わるべき?
- “情報リテラシー”について「学修(と研究)」という文脈において(再)構築・共有・更新していくべき?
- “日本型”モデルをめざして!!

2. 内外における動向—いくつかの事例から—

英国の事例(1) シェフィールド大学インフォメーションcommons

- 教育(学修)活動のためのサービス、コレクション、ゾーニング(什器・機器)
- 複本、相談・指導のワンストップサービス
- 学校図書館!?

英国の事例(2) リーズ大学図書館 Skills@Library

- さまざまな内容・方法の指導
- チームでの取り組み
- 図書館(専門)との棲み分け
- “情報リテラシー教育係”!?

英国の(いくつかの)大学図書館を訪れて…

- 情報リテラシー(教育)は(主題というよりも)学問領域の専門家が担当
- (調査(だけ)でなく)学修プロセス全体をカバー(業務横断的)
- チーム(組織)としての取り組みと個人の役割(責任と裁量)
- 利用者への働きかけ(つながりづくり)
- コスト(リソース)の傾斜的配分
- 図書館「外」へのアプローチ(“戦略”と図書館(員)としてアイデンティティ)

わが国の事例

- ・ 千葉大学アカデミックリンクセンター
- ・ 明治大学和泉図書館
- ・ 同志社大学ラーニングcommons

:

3. “学習支援” から “学修・教育支援” へ

大学における「教育」

- ・ “高校 4～7 年生” !?
- ・ 「教育の質保証」と「単位の実質化」
- ・ 教育の「目標」と「成果」
- ・ シラバスの位置づけ
- ・ 学習資源（図書館）の必要性

図書館は教育・学習支援…誰の何を “支援 “するの”か”

- ・ 「学習」「教授」と「学修」「教育」
- ・ “目的” は教育（学修）の成果
- ・ 資料・情報（資源）は “手段”
- ・ 対象は「教育者」「学習者」
- ・ 「学習（学修）コレクション」とは？

利用者（学生）からみた “taught” と “research”

	目標・内容	活動
taught（教わる）	他人（教員）	本人（学生）
research（究める）	本人（学生）	本人（学生）

図書館による教育・学習（・研究）の支援

活動	対象	目的	手段
教育	教育者（教員）	教育成果	資源の提供 と活用支援
学習	学習者（学生）	学習成果	
研究	研究者（教員・学生）	研究成果	

4. “自主性” に委ねる教育から “主体性・能動性” を育てる教育へ

アクティブラーニングとは？（H24.8 中教審答申）

- ・ 一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称
- ・ 発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法

……日本語で考えてみましょう！

- ・「能動的学習」の意味・意義
- ・「自主的（性）」と「主体的（性）」
- ・教育的な意図と目標
- ・カリキュラム（教育課程）における授業の位置づけ

主体性・能動性を促すために

- ・目的・目標の確認・共有（カリキュラムのなかで）
- ・興味・関心の掘り起こし（明確化）
- ・知的好奇心・表現意欲・交流欲求の刺激
- ・“参加感”の演出・工夫
- ・“わかりやすい”授業はいい授業!?
- ・図書館（データベース）の講習会は!？（“情報リテラシー”のカリキュラム）

5. “教育・学修資源センター”としての図書館, “教育者”としての図書館員

三つの資源（リソース）

- ・情報資源……コレクション（データベースを含む）
- ・空間資源（物的資源を含む）……施設・設備・備品など
- ・人的資源……図書館員・学生など

大学は教育（と研究）の機関

- ・“（間接の）支援”（のみ）から“（直接・共同の）指導”へ
- ・“指導”の手段は多様（例えば、ピアラーニング）
- ・“先生（教育者）”としての図書館員

教育機関の一員（プロ）として

- ・教育学の基礎（教職基礎、インストラクショナルデザインなど）
- ・らせん型（スパイラル）のプログラム
- ・PDCA サイクル

:

6. 新しい“情報リテラシー教育観”の構築に向けて

学習者（学生）をとらえる

- ・大学・学部・学科などの理念（カリキュラムの目標）
- ・学生の“ニーズ”（と“シーズ”）
- ・行動面・心理面・認知面の特徴・傾向（Google 世代/デジタルネイティブ）
- ・（“数量”（だけ）でなく）“ケース”で把握

情報資源（データベース）をとらえる

- ・教育・学習プロセスにおける位置づけ
- ・「検索」と「探索」

- ・ 「二次情報 → 一次情報」!?
 - ・ “マルチメディア” から “トランスメディア” へ
- “情報リテラシー” のカリキュラムづくり
- ・ 目的（意義）・目標（内容）
 - ・ 体系表（全体像）
 - ・ セッション（授業・講習会等）のシナリオ（指導案）
 - ・ 教材・マニュアルなど
- “情報リテラシー教育観” を
- ・ 「情報」「リテラシー」「教育」をめぐる理念（価値観）を構築（議論）・共有
 - ・ 素朴な機能主義・能力主義でなく
 - ・ 単純な“ツール（リソース）” 志向でなく
 - ・ 卒業生という“価値”

7. おわりに

図書館という“組織”の在り方

- ・ 教育・学修資源は（狭義の）図書館以外にも
- ・ 「所属」と「活動」
- ・ 「目的」と「手段」
- ・ 図書館（員）としてのアイデンティティ

〔おまけ〕本学では…

- ・ 本学図書館における試み
- ・ 新図書館棟（仮称）構想
- ・ B1F 改装（?）、「図書館学習室」設置
- ・ FD プロジェクト

：

ありがとうございました

- ・ ご意見、ご質問、ご批判をいつでも歓迎いたします